

日報

第73号



形山大学日報

令和2年10月1日発行

新しい生活への一歩

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年とは異なる状況で新学期がスタートした。始業式や延期された入学式は放送により行われ、授業が始まらないまま臨時休校となった。臨時休校期間は各教科より出された指示に従い、課題やモテテストなどを各自が進めるといった異例の形となったが、四月十六日から学年ごとの分散登校が開始され、久々に友人と顔を合わせた生徒たちは満面の笑みを見せていた。そして、一年生は緊張の中にもこれから始まる高校生活に期待を膨らませ瞳を輝かせていた。五月下旬になり通常授業が開始されたが、マスクを着用する、三密にならないよう距離をとる、窓や戸を開け常に換気をする、手洗いうがいをこまめに行う等、普段以上に気を付けながら生活を送った。楽しく過ごすはずのお昼休みも、食事をとるときは前を向いて一

人ひとり無言で黙々と食べるという違和感の中、過ごした。また、生徒も

教員もマスクを着用しての授業のため、今までとは違う疲れを感じていた。

全国高校総体や甲子園大会をはじめ、多くの部活動の大会が中止となり、懸命に練習を重ねてきた生徒や指導者は涙をこらえ気持ちの整理をつけていた。その中でも、代替大会や発表会が実施された部活動もあり、開催されることの喜びと感謝の気持ちを表すべく生徒たちは大会や発表会で持てる力を全力で発揮した。

例年は七月中旬に行われていた一学期の終業式も、今年度は八月七日に行

われた。終業式は全校生徒が一同に会する事ができず放送により行われたが、学年集会では生徒同士が十分な距離を保つことができるということ、今年度初めて各学年で集まる事ができた。特に一年生は初めて学年の仲間たちと顔を合わせる事ができ、笑顔がこぼれていた。

様々な行事が中止や形を変えての実施になった令和二年度の学校生活ではあるが、新しい生活様式の必要性を感じる反面、これまでにない不自由さにも気づくことができた。

生徒諸君には、これからの新しい生活に対して自ら考え、行動し、自分の夢に向かって多くのことに挑戦していただきたい。そしてその高校生活を、我々教職員は全力でサポートしていこうと思う。



授業風景



学年集会

一学期 行事一覽

四月

六日 始業式
十六日～十七日 二・三年生 分散登校

十八日 入学式
二十日～二十一日 各学年身体計測・諸検査

五月

十一日～二十三日 各学年 分散登校
二十五日 全学年 通常授業開始

六月

二十四日 一・二年生 生活指導講話「SNSと薬物の危険」
七月 二日～四日 三年生 中間考査

十日 一・二年生 生活指導講話「十代の性」
十一日 全学年 進研模試
十五日 二年生 選挙講座
十七日 三年生 日大チャレンジ模試
二十一日 一年生 防災講座
三十一日～八月四日 全学年 期末考査

八月

七日 終業式

※四月に行われる予定だった日本大学の基礎学力到達度テストは中止。
※四月七日から五月十日まで 二・三年生臨時休校
※四月十九日から五月十日まで 一年生臨時休校

※一・二年生の中間考査は例年五月に実施されていたが中止。
三年生の中間考査は、五月の予定を延期し、七月に変更しての実施。

・分散登校では、一年生はガイダンスやオリエンテーションを行い、OBSの使い方が指導されその後、休校中の課題が配られ、登校日に回収が行われた。
・二・三年生でも、OBSを用いて各教科で課題やテストが配信され、登校日に回収・点検が行われた。

日本大学への付属推薦制度について

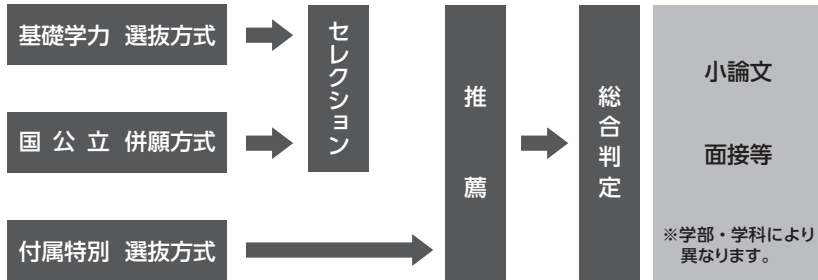
(日本大学全ての学部・学科が付属推薦制度の対象です。)

日本大学への付属推薦制度は、3つの方式があります。

- ①基礎学力選抜方式は、2年次に1回、3年次に2回の計3回、全国の付属生を対象として実施される「基礎学力到達度テスト」の成績が重視されます。
- ②付属特別選抜方式は、在籍中の成績、取得資格、課外活動等が重視されます。

③国立併願方式は、一部の学部で実施され、2年次に1回、3年次に2回の計3回、全国の付属生を対象として実施される「基礎学力到達度テスト」の成績が重視されます。

なお、①・③については基礎学力到達度テストの結果に基づき、セレクション（テストの結果による選抜）が行われます。



八月一日、三年生の保護者を対象に日本大学付属推薦基準等説明会が開催され、松浦進路指導主任、大江副主任による説明が行われた。入試の方式は基礎学力選抜、付属特別選抜、国立併願方式に分けられる。

日本大学付属推薦基準等説明会



国立大学進学説明会



六月十三日・十六日に、河合塾（仙台校）の講師を招いて開催された。大学入学共通テストを始めとする新入試制度への移行など、最新の受験環境に関する説明が中心であった。情報収集や入試本番を見据えた学習計画は重要である。しかし、

受験生としての覚悟がなくては始まらない。『志を高く持ち、諦めない姿勢』『学習に積極的に取り組み攻めの姿勢』を説く講師の姿が、何よりも印象的だった。会場を包む熱気は、生徒の心に決意の火が灯った証に違いない。未来へと繋がる一歩がこの日、踏み出された。

生活指導講話・各種講座

本校では毎年、生徒が自分の身を守りより良い人生を送ることができるよう、外部講師を招いて生活指導講話や選挙、防災、消費者の各講座を実施している。例年は体育館で実施してきたが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各教室で放送による実施となった。

生活指導講話
身の回りに潜む危険を避けトラブルに巻き込まれることがないよう啓発を促す目的で、入学直後の「交通安全教室」（一年生）、六月に「SNSと薬物」（一・二年生）、七月に「十代の性」（一・二

◎選挙講座（七月）

山形市選挙管理委員会事務局の方をお招きし、まもなく選挙権を得る二年生が、選挙の仕組みや投票の大切さを学習した。模擬選挙も行なわれ、その様子



◎防災講座（七月）

は山形新聞に掲載された。日本赤十字社山形県支部より、青少年赤十字指導講師の片山款郎先生（元本校教諭）をお迎えし、一年生が地震や水害などの自然災害への適切な対応について学んだ。生徒たちは資料に書き込みをしながら熱心に話を聞き、災害に対する意識を高めていた。

◎消費者講座（八月）

山形県消費生活センターの方をお招きして、三年生を対象に消費者問題に関してロールプレイングも交えつつお話しをしていただいた。講座を終え、生徒たちは自立した消費者を目指し「批判的思考力」を身に付ける必要性を感じていた。

令和2年度 特待生 奨学生 決定

日本大学付属高等学校 特待生

- 保科 紅華（小国中）
- 荒井 斗希（山形四中）
- 須貝 祐也（上山南中）
- 柴田美夢菜（東根一中）

日本大学山形高等学校 奨学生

- 井上 遥太（山形三中）
- 小関 和清（金井中）
- 二ノ戸昭幸（高橋中）
- 高橋 優太（日新中）
- 早坂 えり（山形一中）
- 木村 百葉（上山南中）
- 阿部 颯斗（山形六中）
- 清水 一翔（高橋中）
- 阿部 有希（山形一中）
- 渡部 真悠（天童四中）
- 佐々木 巖（山形六中）
- 藤田 恭大（神町中）

日本大学山形高等学校

コカ・コーラ育英奨学生

- 奥山 大祐（山形二中）
- 李 伯航（山形三中）
- 濱田 樹里（魯昌学園）
- 村山 元気（上山北中）
- 阿部 真珠（酒田東部中）
- 水戸 讓司（天童二中）

高校総体代替大会

今年度は、新型コロナウイルスの影響で全国高校総体などが中止になったことで、三年生にとっては厳しい現実を突きつけられる形になった。そこで、三年生の成果を発揮する場や活躍の場を設けられないかということで、代替大会が開催された競技もあった。

しかし、競技性によっては代替大会を開催できない競技もあった。

次に結果を報告する。

運動部

野球部

七月十一日～八月一日

二回戦

日大山形 9-0 山形東

三回戦

日大山形 4-2 山形城北

準々決勝

日大山形 6-5 山形工業

準決勝

日大山形 2-4 東海大山形

ベスト4

サッカー

七月十一日～二十六日

日大山形 2-0 東海大山形

日大山形 1-0 山形中央

日大山形 4-0 山形商業

日大山形 1-1 山形南

三勝一分で一位

陸上競技

七月十八日～十九日

男子 四〇〇m

四位 谷口 僚治(山大附中)

四〇〇mH

優勝 谷口 僚治(山大附中)

男子 四〇〇m

四位 谷口 僚治(山大附中)

四〇〇mH

優勝 谷口 僚治(山大附中)

男子 四〇〇m

四位 谷口 僚治(山大附中)

四〇〇mH

優勝 谷口 僚治(山大附中)

走高跳

四位 渡邊 陽仁(山大附中)

女子 砲丸投

六位 山口 心愛(東根一中)

男子バレーボール

七月二十五日～二十六日

準々決勝

日大山形 2-0 山形学院

準決勝

日大山形 0-2 山形南

三位

ソフトテニス

七月二十五日

男子 三回戦進出

水泳

八月二十九日～三十日

男子 五〇m 自由形

六位 太田 獅音(天童四中)

一〇〇m 自由形

優勝 伊藤 康太(山形六中)

二〇〇m 自由形

優勝 伊藤 康太(山形六中)

六位 佐藤 皓芽(山形三中)

一〇〇m 背泳ぎ

優勝 高内 愛斗(山形十中)

二〇〇m 背泳ぎ

優勝 高内 愛斗(山形十中)

二〇〇m バタフライ

六位 大井 柚希(山形六中)

女子 五〇m 自由形

吹奏楽部

八月二十一日～二十二日

村山地区

吹奏楽連盟演奏会

順位付かず

文化部

吹奏楽部

八月二十一日～二十二日

村山地区

吹奏楽連盟演奏会

順位付かず

岡澤セオン選手

「経験、つながり、消えない」

全国高校総体や県高校総体などの中止で、活躍の機会を失った県内の高校生アスリートに向け、ボクシング男子ウエルター級で東京五輪出場を決めた岡澤セオン選手(鹿児島県体育協会・日大山形高)が関係者を通して山形新聞にメッセージを寄せた。

舞台の重要性を考えると、みなさんのショックは計り知れず、特に三年生については想像もつきません。

でも自分の高校時代を振り返った時に財産となったのは結果ではありません。自分は三年時のインターハイが唯一の全国大会で、結果も納得いくものではありませんでした。成績だけを見れば、高校時代は自分の中で一番弱くて悔いが残る思い出です。

それも自分にとっては大学時代よりも社会人になった今よりも、ボクシングで汗を流した高校での経験はかけがえのないものだったと心から言えます。それは結果ではなく、仲間や恩師との出会い、そこで学んだことが今の自分の人生に大きな影響を与えているからだと思います。

経験や人とのつながりは消えることはありません。みなさんの中には今回で引退する人もいるでしょう。三年間で競技を

通じて学んだこと、一生懸命やりきったことに誇りを持ってこれからの人生を歩んでください。今後も競技を続けようと思っている人はこの悔しさを晴らせるように頑張ってください。

いつか「この悔しい経験があったからこそ今の自分がある」と胸を張って言える日が来ることを祈っています。苦しい状況に負けず前向きに頑張ります。

(山形新聞二〇二〇年四月二十九日)



2019年 全日本選手権 優勝



左ストレートを打ち込む岡澤選手

令和3年度入試から新たに**推薦併願方式**を導入！

推薦併願方式とは、公立高校(含む 高等専門学校)を第一志望、本校を第二志望(併願)としている受験生が対象です。出願書類と面接試験で合格内定を得て、気持ちに余裕を持ちながら受験勉強に取り組むことができます。受験生にとっては従来の推薦専願方式の他に推薦併願方式を選ぶことができ、受験の選択の幅が広がりました。

出願資格 次の①～③の条件をすべて満たす者。

- ① 令和3年3月中学校卒業見込みの者。
- ② **[推薦専願方式]**
本校を第一志望(専願)とする者で、中学校長の推薦があるもの。
[推薦併願方式]
公立高校(含む 高等専門学校)を第一志望、本校を第二志望(併願)とし、本校以外の私立高校を受験しない者で、中学校長の推薦があるもの。
- ③ 学業、人物ともに優良で、下記の「出願基準」を満たし、3年次の評定に1を含まない者。

出願区分と出願基準 ※詳しくは、令和3年度生徒募集要項を御覧ください。

出願方式 推薦区分 コース	推薦専願方式			推薦併願方式	
	部活動推薦(本校が指定する者)	一般推薦		進学コース	特進コース
コース	スポーツコース	進学コース	進学コース	進学コース	特進コース
出願基準 (評定合計)	5教科11以上 または 9教科20以上	5教科14以上 または 9教科25以上	5教科15以上 または 9教科27以上	5教科16以上 または 9教科29以上	5教科22以上

タブレット導入に向けての準備が整い、十月より一、二年生全生徒対象にiPadを導入することが決まった。本校ではICT教育を推進しようと、これまで一部教室にモニターを設置し、各教科には一台ずつiPadを配付し、その活用方法について研修を重ね、準備を進めてきた。ロイロノートの活用やGoogleの様々なアプリの利用等を予定しており、授業での大きな活躍が期待されている。今回のタブレット導入により、調べ学習やグループワークでの情報共有、課題の配信や提出等、「主体的で深い学び」「協働する学び」の実現へ向け、大きな一歩を踏み出すこととなった。卒業後は愛着のある自分のiPadとして引き続き使用することができるため、在学中はもちろん卒業後も大いに活用できるよう、正しく且つ有効な活用方法を学んでもらいたい。

タブレット導入に向けての準備が整い、十月より一、二年生全生徒対象にiPadを導入することが決まった。本校ではICT教育を推進しようと、これまで一部教室にモニターを設置し、各教科には一台ずつiPadを配付し、その活用方法について研修を重ね、準備を進めてきた。ロイロノートの活用やGoogleの様々なアプリの利用等を予定しており、授業での大きな活躍が期待されている。今回のタブレット導入により、調べ学習やグループワークでの情報共有、課題の配信や提出等、「主体的で深い学び」「協働する学び」の実現へ向け、大きな一歩を踏み出すこととなった。卒業後は愛着のある自分のiPadとして引き続き使用することができるため、在学中はもちろん卒業後も大いに活用できるよう、正しく且つ有効な活用方法を学んでもらいたい。

ICT教育を推進
タブレット導入
一、二年生が活用へ



新しい形へ



選挙講座の開票作業



奨学生認証書

フット・ボール・カルト

日本大学山形高等学校広報部
〒990-2433 山形市鳥居ヶ丘四一五五
TEL 023-641-6631(代)
FAX 023-641-6634
URL http://www.yngt.hshon-u.ac.jp
印刷 (株)大風印刷
写真提供 (有)カメラの石山・山形新聞社



国公立大学進学説明会



授業ができる喜び

編集後記
コロナ禍の中で「新しい生活様式」を踏まえた生活が続いている。綿々と続いた伝統行事も今年は中止や延期が相次ぎ、季節の風物に触れることが難しい状況にある。加えて、七月末の豪雨。河川の氾濫により甚大な災害となった。被害に遭われた方々に改めてお見舞いを申しあげます。今号は特別紙面となった。いつものように笑顔あふれる生徒の写真をお届けできないのは残念であるが、東京オリンピック2020のボクシング日本代表で本校OBの岡澤セオン選手からのメッセージを掲載させていただきました。また、本校でも新たな取り組みがスタートする。入学試験に「推薦併願方式」を導入、ICT教育の推進を図るべく「iPad」の導入など、未来に向けて大きな一歩を踏み出す。コロナ禍で失ったものは決して少なくない。しかし、前を向き、ひたむきに日常生活を取り戻そうとする高校生の姿は、必ずやこれからの日本を明るく元気に支える力になってくれるに違いない。